

第32回職業リハビリテーション研究・実践発表会 模擬訓練を実施してからの企業への情報移行と 就職への試み

○ 堀田 正基（特定非営利活動法人 社会的就労支援センター 京都フラワー 理事長）

1 目的

福祉現場で行われる知的障害者の就労支援は、主として、就労継続支援事業所で実施されている。人員配置規定は、現状に則しておらず、就労支援に関わる専門職は、恒常的な人員不足の状態に陥っている。本研究は、知的な障害のある成人を対象に、施設外支援制度を想定し、模擬訓練による支援とその過程で作成された包括支援シートの効果を実証的に検証する事を目的とした。

2 方法

対象利用者(以下、Aと記述する)：軽度の知的障害がある25歳の男性で、20XX年より就労支援事業所Bに通所している。当初は、Aの就職を前提とした調査を予定していたが、諸事情により調査のみに限定し、仮の就職試験と仮の採用条件を設定することとなった。

実施場所：株式会社Cと就労支援事業所B。

支援目標：不良を出すことなく100個の箱を折り上げ、折り上げた箱を10個単位で積み上げて結束機を使用して、5分以内に結束し、2つの作業を1時間以内に達成すること。

実施場所：株式会社Cと就労支援事業所B。

従属変数：100個の箱の完成に要した時間、100個の箱の良品率とした。

支援手続き

(1)体験実習(ベースライン)

株式会社Cで実施し、Aが行う箱100個の作成時間、結束作業時間、不良数を記録した。また、Aが興味を持てるような介入方法を検討した。

(2) 模擬訓練 1

就労支援事業所Bで行われ、箱折り作業を50個にし、A自身が作業手順を身に付けるプロンプトを与え、A自身が、カウントダウンタイマーの目標時間を20分に設定し、作業時間をストップウォッチで管理するセルフマネジメント手続きと、記録用紙に記録を記入させるセルフマネジメント手続きを行い、箱50個の作成を実施することを求め、10個のおはじきを1箱折るたびに、1個ずつ紙コップの中に入れるセルフマネジメント手続きを行うことを求めた。

(3)模擬訓練2

就労支援事業所Bで行われ、箱折り作業を100個にし、カウントダウンタイマーの目標時間を40分に設定し、模擬訓練1と同様の3つのセルフマネジメント手続きを求めた。

(4)模擬訓練3

就労支援事業所Bで行われ、箱折り作業を100個にし、カウントダウンタイマーの目標時間を40分に設定し模擬訓練1と同様の3つのセルフマネジメント手続きを求めた。

(5)模擬訓練4

結束作業は、就労支援事業所Bで行われ、結束作業で、A自身が、作業時間をストップウォッチで管理するセルフマネジメント手続きと、記録用紙に記録を記入させるセルフマネジメント手続きを求めた。

(6)プレ雇用前実習

株式会社Cで行われ、株式会社Cが包括支援シート用い、A対して実習指導を行った。また、Aには、模擬訓練1と同様の3つのセルフマネジメント手続きを求めた。

3 結果

- 体験実習(ベースライン)

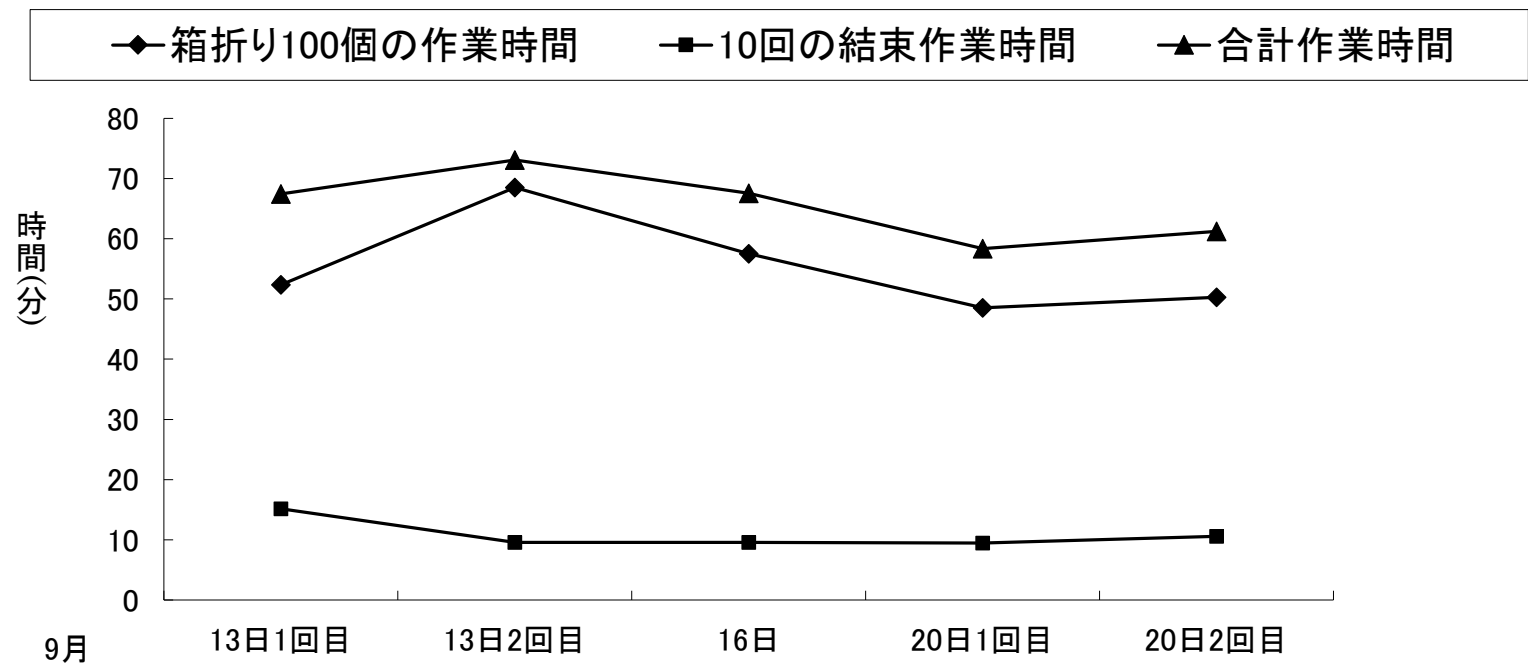


Figure 1 箱折り100個の作業時間・10回の結束作業時間・合計作業時間

箱折り100個の作業時間 平均作業時間:55分01秒	10回の結束作業時間 平均作業時間:11分18秒	合計作業時間 平均作業時間:67分53秒
-------------------------------	-----------------------------	-------------------------

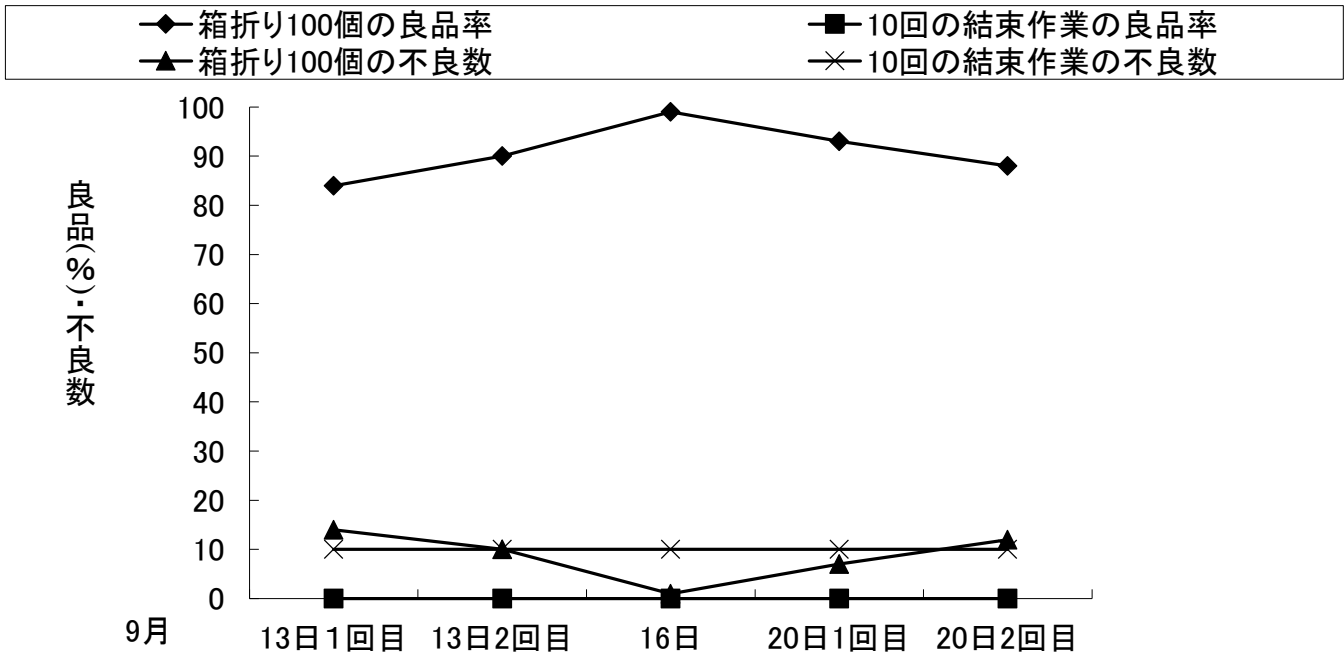


Figure 2 箱折りの100個の良品率・不良数、10回の結束作業の良品率・不良数

箱折りの100個の良品率・不良数
不良品数の平均:8.8個 良品率の平均:91.2%

10回の結束作業の良品率・不良数
不良品数の平均:0個 良品率の平均:0%

・ 模擬訓練 1 ・ 模擬訓練2 ・ 模擬訓練3

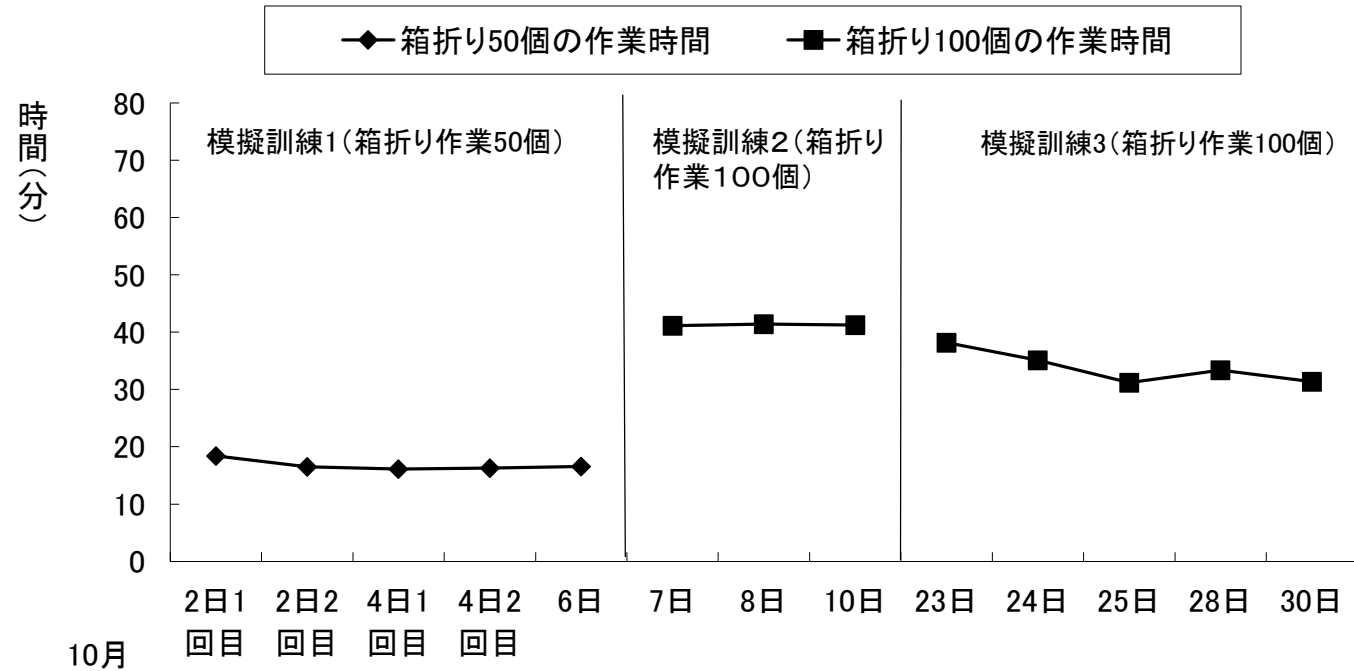


Figure3 模擬訓練1・模擬訓練2・模擬訓練3での箱折り50個の作業時間・箱折り100個の作業時間の推移

模擬訓練1
箱折り50個の作業時間
平均作業時間:17分04秒

模擬訓練2
箱折り100個の作業時間
平均作業時間:41分44秒

模擬訓練3
箱折り100個の作業時間
平均作業時間:34分00秒

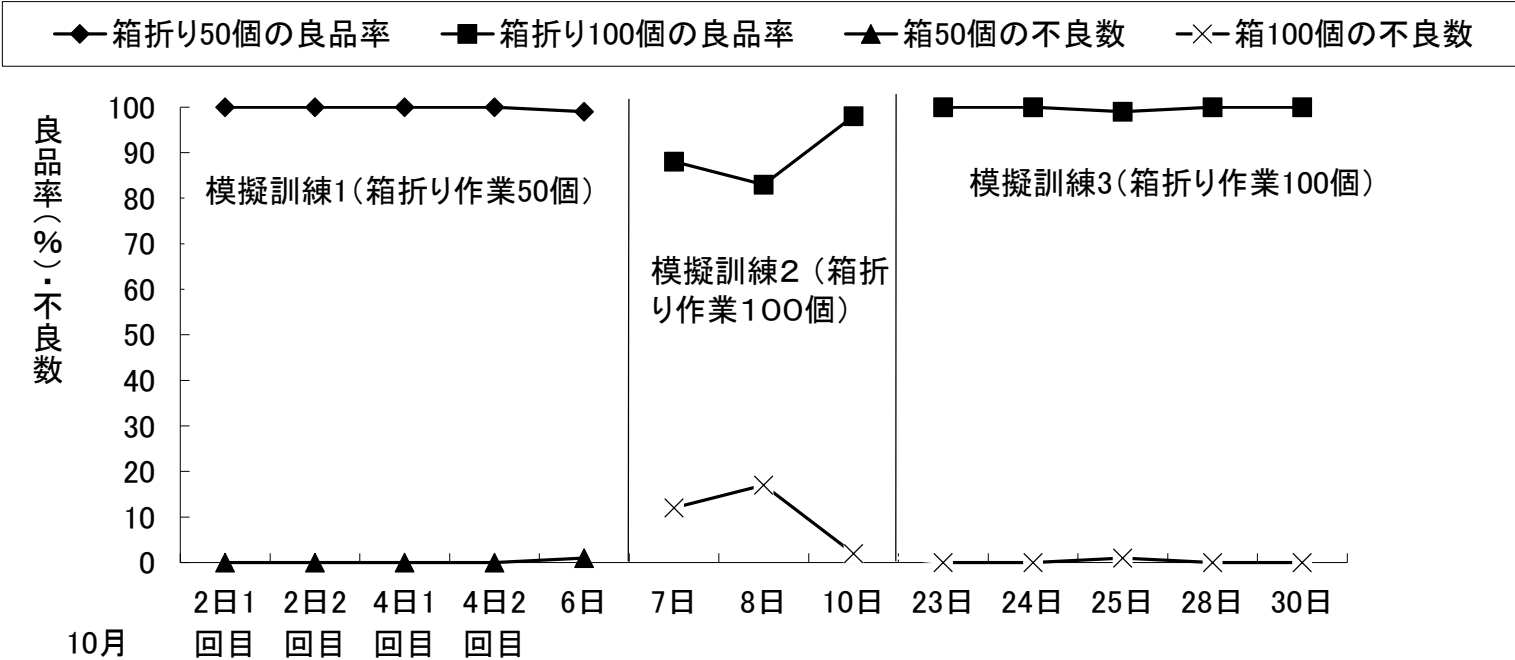


Figure4 模擬訓練1・模擬訓練2・模擬訓練3での箱折り50個の良品率・不良数、箱折り100個の良品率・不良数

模擬訓練1
箱折り50個の良品数・不良率
不良品数の平均:1個
良品率の平均:2%

模擬訓練2
箱折り100個の良品数・不良率
不良品数の平均:10.3個
良品率の平均:89.6%

模擬訓練3
箱折り100個の良品数・不良率
不良品数の平均:1個
良品率の平均: 99%

・ 模擬訓練4

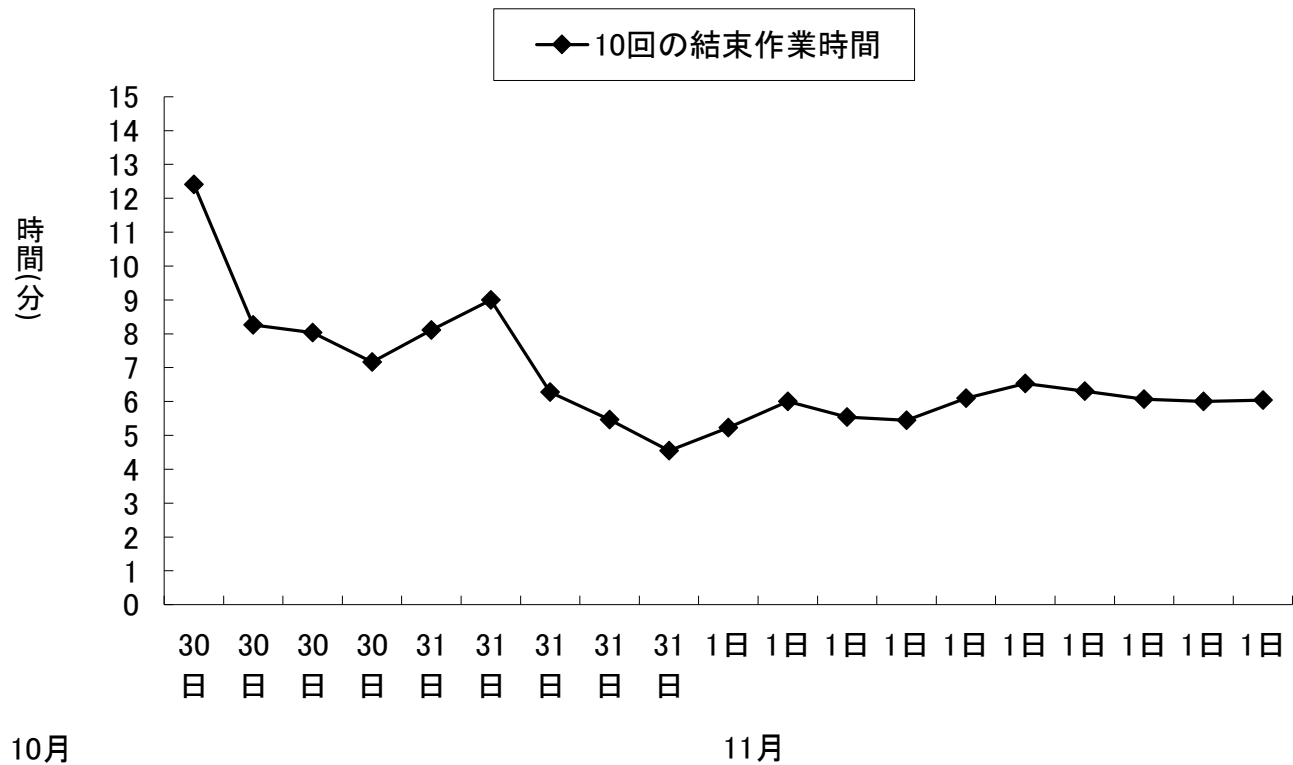


Figure5 模擬訓練4 10回の結束作業時間の推移

模擬訓練4
平均作業時間:7分34秒

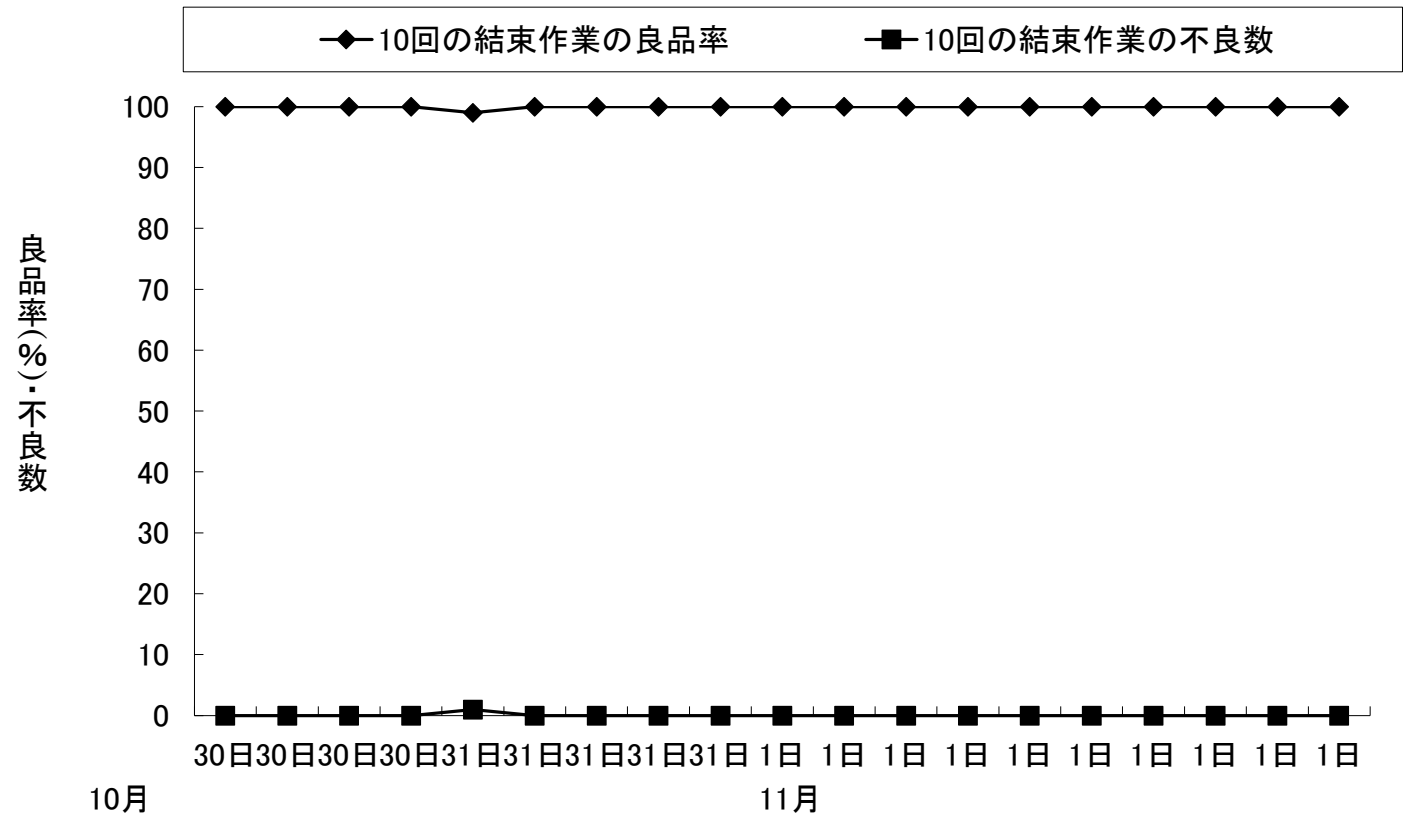


Figure 6 模擬訓練4 10回の結束作業の良品率・不良数

模擬訓練4 10回の結束作業の良品率・不良数
不良品数の平均:約99個 良品率の平均:約99%

・ プレ雇用前実習

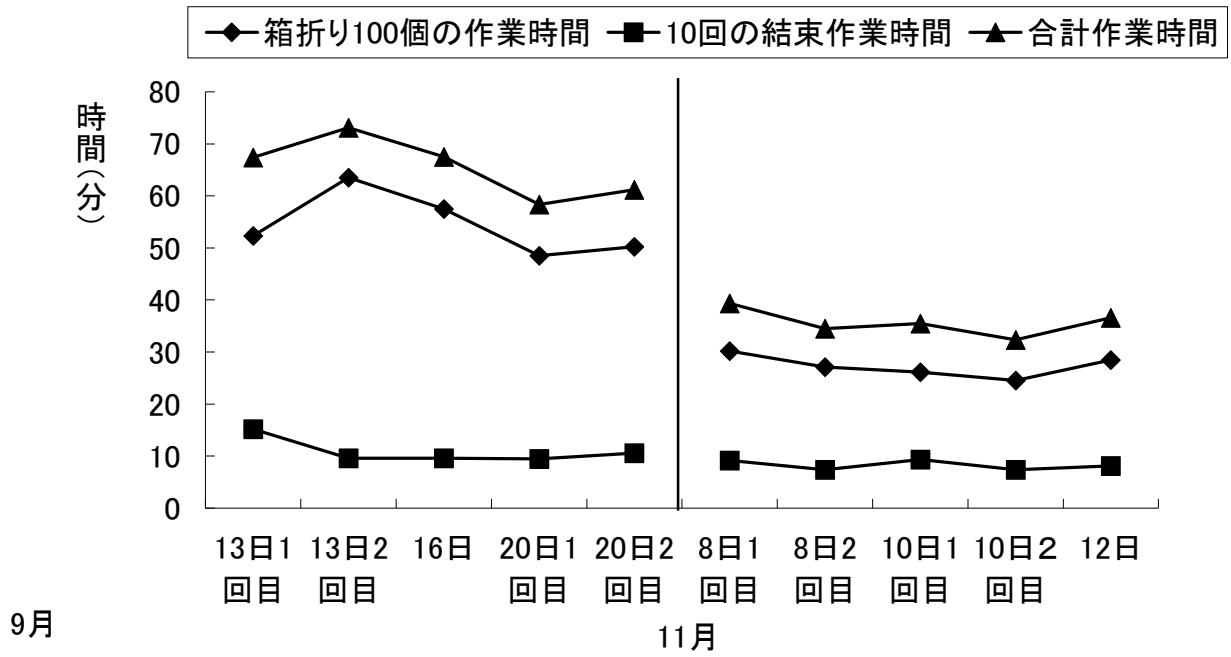


Figure7 体験実習(ベースライン)とプレ雇用前実習での箱折り100個の作業時間、10回の結束作業時間、合計作業時間

ベースライン 箱折り100個の作業時間 平均作業時間:55分01秒	ベースライン 10回の結束作業時間 平均作業時間:11分18秒	ベースライン 合計作業時間 平均作業時間:67分53秒
プレ雇用前実習よりも 平均作業時間を28分21秒短縮	プレ雇用前実習よりも 平均作業時間を3分13秒短縮	プレ雇用前実習よりも 平均作業時間を30分22秒短縮

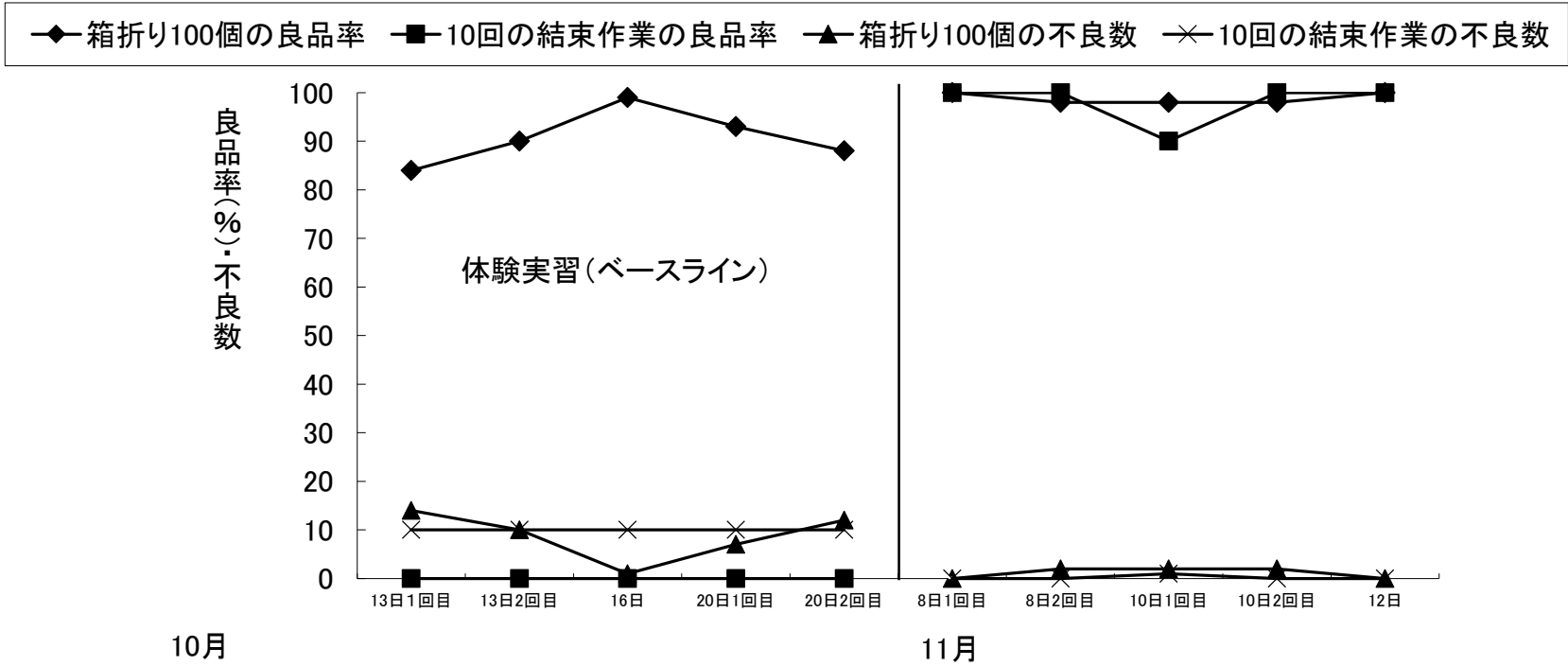


Figure 8 体験実習(ベースライン)とプレ雇用前実習での箱折り作業100個の良品率・不良数、10回の結束作業の良品率・不良数

ベースライン
箱折りの100個の良品率・不良数
不良品数の平均:8.8個 良品率の平均:91.2%

プレ雇用前実習
箱折りの100個の良品率・不良数
不良品数の平均: 1.2個 良品率の平均: 98.8%

ベースライン
10回の結束作業の良品率・不良数
不良品数の平均:0個 良品率の平均:0%

プレ雇用前実習
10回の結束作業の良品率・不良数
不良品数の平均:0.2個 良品率の平均:99.8%

「包括支援シート」についてのアンケート調査結果について

- ・ アンケート調査は、調査を実施する前に、株式会社C側に断られていた。理由は、年末年始は多忙であるため、「面倒である」とのことだった。
- ・ 2～3分以内の簡単な質問には口頭で応じる承諾を得た。社長には「包括支援シート」による情報移行に関する感想を伺い、主にキーパーソン役を担って下さった従業員のSさんには作業中の状況の感想を伺った結果を次項の表にまとめた。

質問内容	株式会社C側からの回答
包括支援シートに記述した「模擬訓練での能力獲得の経過」	特に、必要性は感じない。施設の職員の勉強にはなるだろうが、企業側としては、仕事さえ、してくれば十分なので必要性は感じない。
包括支援シートに記述した「実習中の指示依頼内容」	知的障害のある人材を受け入れるに当たって、その人の、特徴や作業の進め方は未知なものである。また、施設の職員が実習に付き添わないのなら、企業側で責任を持って対処しなければならないので、必要な情報である。
包括支援シートに記述した「お願いする注意事項」	利用者の特徴をまとめたものは、必要不可欠で、どのような、突発的事項にも対処できるように詳細な資料は必要だ。実習を引き受けたからには企業側にも責任があるので、事故防止のためにも欲しい情報である。
作業中の状況	実習中に指示依頼内容通りに、Tも素直に働いてくれ、愛着感は深まった。今まで、社長と2人で仕事をしていたが、Tが働いてくれて、職場に活気が出てきた。最初は、少々、面倒な仕事を引き受けたと考えたが、Tの存在が楽しい雰囲気と活気を職場に与えたことは良いことであった。

4考察

- ・本研究の結果として、A は、3つのセルフマネジメント手続きを用いて、目標時間の設定とその達成によって、全作業時間の短縮を促したと考えられる。
- ・プロンプトによる指示によって全作業を身に付けたことが、不良品発生を抑制しと考えられる。
- ・この結果、就労移行支援において、模擬訓練と包括支援シートの導入は、知的な障害のある人達の雇用前実習等において有効であり、企業側が包括支援シートを指示

通りに使用すれば、企業側の従業員も、支援対象者の支援者になることは可能であることが示唆された。これにより、サービス提供期間が上限180日の施設外支援制度による雇用実習のような短期間の就労支援において、支援対象者に模擬訓練を実施し、包括支援シートを活用する支援は効果的であることが、本研究において示唆された。

- ・株式会社Cは、個別支援シート「能力獲得の項目」は、必要なく「実習中の指示依頼内容」、「お願いする注意事項」という仕事に直結する部分の情報は必要という見解を示した。
- ・今後、個別支援シートを作成する場合、読み手である企業側が支援対象者に対し、「読みたくなる」、「考えたくなる」、その結果、「支援したい」というように記述方法を工夫し、検討する必要があるだろう。